

急性期リハビリテーション

■早い時期からの積極的なリハビリテーションの提供

急性期とは、病気になった直後や手術直後など病状の安定のために積極的な治療を施す必要がある時期を言います。医師、看護師を始め様々な職種が連携をとりながら患者様の状態を観察しています。近年では医療の進歩に伴い過度の安静を減らすようになってきています。安静が長く続けば体力や筋力の低下を招き、起き上がることも大変になる事があります。そのため医師の判断により、入院後早い時期から身体機能を低下させないようにリハビリテーションを行うのです。

当院での急性期リハビリテーションは、**院内ほぼ全ての診療科より指示**が出されています。病気になり直ぐのリハビリテーションは病室(ベッドサイド)が中心になり、医師・看護師などとの連携を特に強め、状態の観察を行いながら**理学療法・作業療法・言語聴覚療法**を実施し離床を進めていきます。その後、病状の安定に伴い機能訓練室でのリハビリテーションが開始されていく事になります。

理学療法士



作業療法士



言語聴覚士



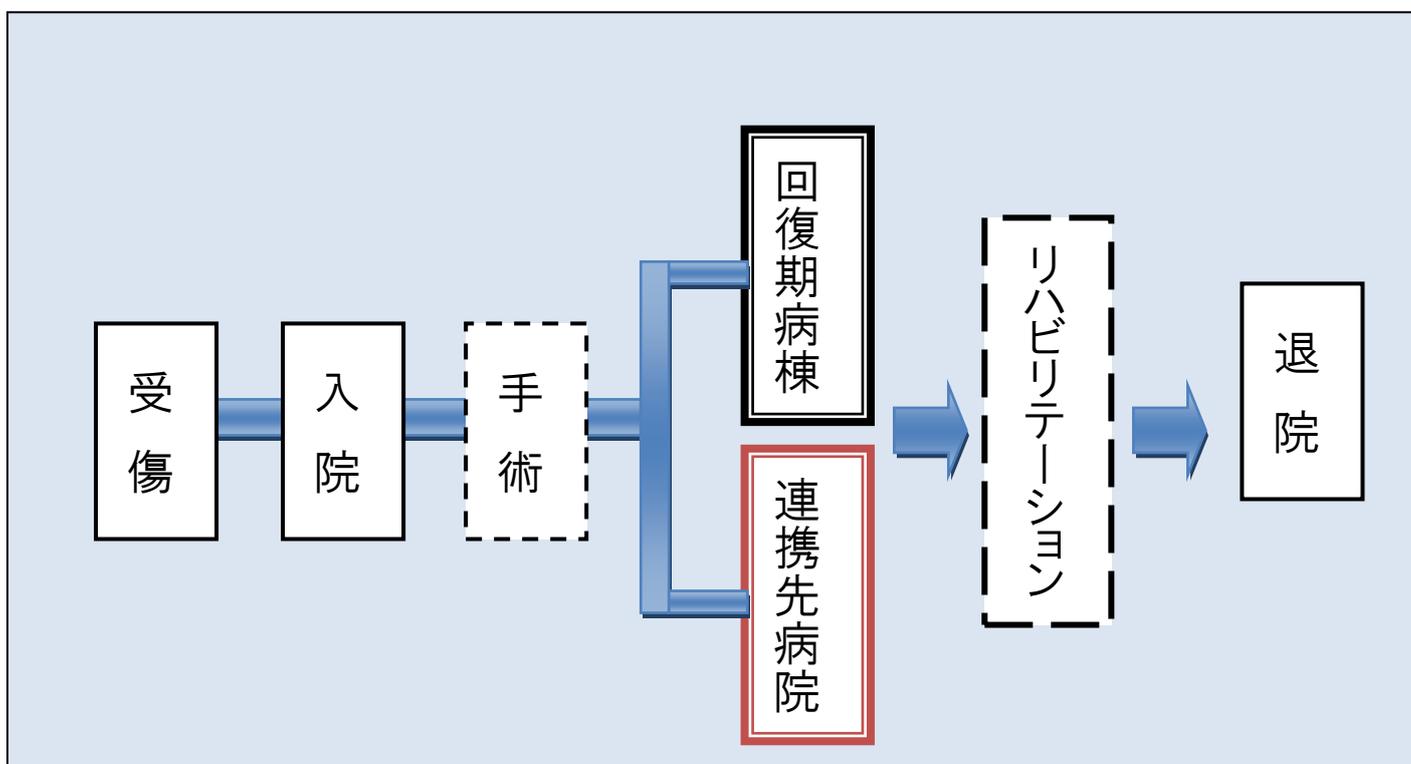
■他リハビリ病院との連携

【大腿骨頸部骨折地域連携クリティカルパスの実施】

平成 20 年 1 月より静岡市内 4 病院と連携し大腿骨頸部骨折地域連携クリティカルパスを導入しています。大腿骨頸部骨折に対するの患者様に対して当院にて手術を行い 3 週間の入院後、当院回復期リハビリ病棟もしくは、連携先リハビリテーション病院へ転院することが可能です。

《地域連携クリティカルパスの流れ》

手術後3週で当院回復期リハビリ病棟転科もしくは連携先病院転院となりますが、クリティカルパスは患者様の病態によって適応とならないことがあります。



《連携先病院》
静岡リハビリテーション病院
静岡リウマチ整形外科リハビリ病院
静岡リハビリテーション病院
山の上病院